

酸性土壌のカルシウム と マグネシウムを改良

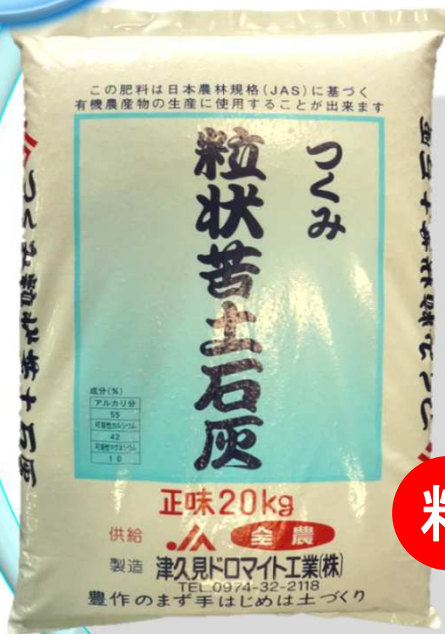
苦土石灰

くどせっかい

アルカリ分55% マグネシウム10%

有機農産物(JAS)
適合資材

酸度
矯正



早く効かしたい場合は
粉品がお勧めです。

■ 供給

JAおきなわ

琉球肥料株式会社

■ 肥料成分

アルカリ分 55% ※可溶性カルシウム 42%
※可溶性マグネシウム 10%

■ 土づくり(酸度矯正)での使い方

【使用する時期と注意点】

1. 作付の1ヶ月程度前までに行うことをお勧めします。

ポイント) ① 強い酸性土壌の場合、pHを矯正する時間が必要。
② 基本、堆肥や基肥使用の2週間～1週間前に行う。

2. 散布あとは耕耘する。(深さは基本20cm以上)

【苦土石灰の使用量を決める】

1. 苦土石灰を使用する畑の土のpHを測定してください。

2. 栽培する作物の適性な土のpHを確認してください。

(野菜は一般的にpH6.0～6.5が適性範囲です。)

3. 下記の早見表から必要な袋数を確認してください。

改良目標	測定値(畑の土のpH)			
	pH4.0	pH4.5	pH5.0	pH5.5
pH 6.0 に改良	25袋	20袋	15袋	8袋
pH 6.5 に改良	33袋	28袋	22袋	16袋

※ 上記の袋数は、10アール(300坪)の深さ20cmに対するものです。
改良する深さに応じて加減してください。

※ 砂質土壌の場合は、上記袋数の60%程度としてください。

【土のpHがわからない場合は、営農指導員にご相談ください。】

確実に酸性土壌(国頭マージなど)であると確認できる場合は、5袋程度(10アール・深さ20cm改良)の使用量としてください。

■ 栽培途中で低pHが原因の生理障害が発生した場合の対処

苦土石灰(粉)を100g/m²程度、畑に散布して散水してください。

※ 散布後1～2週間あとに、土のpHを測定して経過を確認してください。